

近代化遺産の活用

兵庫県立加古川北高等学校教頭
陶山 浩

1. はじめに

2013年1月23日付神戸新聞で、神戸市垂水区塩屋の旧ジョネス邸の売却話の記事が飛び込んできた。旧ジョネス邸は、随所に和洋折衷の意匠が取り入れられた兵庫県の近代化遺産に選定されている名建築物である。

文化財というと、姫路城(世界文化遺産・国宝)や興福寺阿修羅像(国宝)など、古くて著名なものを考えてしまう。新しいものは、価値がなく、保護する必要性をあまり感じないのは私だけだろうか。

現在の環境を形成している古いものから新しいものが、複合的に混ざり合っ一つの価値観をつくりあげている。その時代がつくりだしたものは、その時代の背景を背負って存在しているはずである。そこから読みとれるものこそ、文化財というにふさわしいものである。特に近代化遺産は、歴史的に見ても、現在から時間的経過が少ないため、文化財に位置づけることが遠慮されてきたのかもしれない。

しかし、近年における大規模な都市開発や急激な技術革新の進展、産業構造の変化、生活の利便性の追求などにより、近代化遺産は国民の財産としてかえりみられることなく改変されたり、取り壊されたりしている。今ここで文化財としての位置づけをしないと、存在自体が危うくなり、消失の憂き目にあうおそれがある。

2. 近代化遺産とは

(1) 定義

近代化遺産とは、「江戸時代末期から第2次世界大戦終結時(昭和20年)までに竣工した(昭和20年以降であっても戦後復興に関わったものは含む)、産業・交通・土木に関わる」建造物⁽¹⁾である。つまり、現在都市のライフラインと呼ばれる、電気・水道・ガスの設備や、西洋化した産業を導入した企業・工場、近代技術の成果としての鉄道・港湾設備・橋梁・道路・ダム・水路整備、近代の社会施設としての官

公庁建築・教育施設、ライフスタイルの変化としての西洋館・住宅地の形成、などの材料や技術、形態的に理解しやすいものをさしている。

このように近代化遺産は、近代の駅舎や橋梁、公共施設、地場産業の発展を支えた町工場など、私たちの生活に身近なものとして存在している。近年、これらの近代化遺産は、新たな観光資源、まちづくりや伝統産業振興のきっかけになるものとして注目を集めている⁽²⁾。

(2) 国の動向

1990年度に、文化庁は、各都道府県にある近代化遺産の歴史的沿革、建築技術・技法に関する調査事業を、各都道府県教育委員会が事業主体となる形で実施した。近代化遺産の形態、意匠、保存状況の調査を実施することで、その状況把握と理解の促進をはかり、今後の文化財保護施策や保存措置の一助となることを目的としたものであった⁽³⁾。

その後、1996年の改正文化財保護法によって、「文化財登録制度」が導入された。この登録制度は、近年の開発や都市化によって危機に陥っている、近代の文化財建造物を保護するために作られた。この「文化財登録制度」は、その対象にゆるやかな保護措置を行い、重要な文化財に対して強い規制と手厚い保護を行う従来の指定制度を補完する役割を担っている⁽⁴⁾。これによって、近代化遺産の保護が本格化することとなった。

(3) 兵庫県の近代化遺産

兵庫県では、神戸市の「布引水源地水道施設」、朝来市の「神子畑鉄橋」の2件が、重要文化財に指定されている近代化遺産となっている。ここでは、この2件の概要を紹介する。

◆布引水源地水道施設

布引水源地水道施設は、神戸市の上水道施設であ

る。この施設は、建設当時、最大規模を誇り、明治期を代表する水道施設であった。特に、五本松堰堤（現布引ダム）は、日本で初めての重力式コンクリート造堰堤であり、日本の土木技術史において重要な位置をしめている。

この布引水源地水道施設は、神戸市水道事務所の吉村長策、佐野藤次郎を中心として建設が進められ、1900年に五本松堰堤、雌滝取水堰堤、布引水路橋が竣工した。その後、1907年に分水施設、1908年に締切堰堤と放水路隧道が増設された。布引水源地水道施設では、分水・放水機能が加えられた、土砂流入防止のための貯水・取水機能などの特色を見ることができる⁽⁵⁾⁽⁶⁾。

◆神子畑鑄鉄橋

神子畑鑄鉄橋は、1887年に建設された鑄鉄製のアーチ橋である。この橋は、生野鉱山の拡張事業として建設された「神子畑生野間鉱石運搬専用道路」における鉄橋群の一つである。神子畑鑄鉄橋は、日本に現存している鉄橋では3番目に古いものであり、全てが鑄鉄製の橋としては最古のものである。この神子畑鑄鉄橋は、生野鉱山の開発などで呼ばれたフランス人技師たちの指導によって建設された。

「神子畑生野間鉱石運搬専用道路」には、5か所で橋がかけられていたが、現存するのは神子畑鑄鉄橋と羽淵鑄鉄橋（現在は移築・整備されている）の2つだけとなっている。1977年には、国の重要文化財に指定されている⁽⁷⁾⁽⁸⁾。

(4) 兵庫県の動向

これらの貴重な近代化遺産をかかえる兵庫県の取り組みはどのようなものであったか、以下で説明する。

兵庫県は、1995年に発生した阪神・淡路大震災で多くの文化財が被害を受けた。その経験から、歴史的建造物や、地域に多く存在する歴史文化遺産の保全の必要性が認識された。兵庫県では、被災した歴史的建造物の助成事業を行っており、建築物の修復に必要な技術者を育成するための「兵庫県ヘリテージマネージャー養成講習会」を、建築士を対象にして開講している。そして、「歴史的建造物の修理技術や活用手法、歴史文化遺産を活かしたまちづくりに関する講習を行い」、地域の歴史的建造物を保全

する「ヘリテージマネージャー」登録制度を発足させた⁽⁹⁾。

「兵庫県ヘリテージマネージャー」（歴史文化遺産活用推進員）とは、県内の指定・未指定文化財を発見、保護するとともに、街づくりに活用する人材である。「兵庫県ヘリテージマネージャー」には、①「地域に眠る歴史文化遺産を発見する」、②「地域に親しまれてきた歴史文化遺産を保存する」、③「さまざまな歴史文化遺産を活用し、まちづくりに活かす」という役割が求められている⁽¹⁰⁾。

これらの取り組みの結果、兵庫県では、国登録有形文化財登録数が日本一（541件、2013年1月現在）となった。

また、兵庫県教育委員会では、県内の近代化遺産の現状を把握するため、文化庁から国庫補助を受けて、2003～2005年にかけて「兵庫県近代化遺産（建造物等）総合調査」を実施した。この調査の報告書では、県内の各教育委員会や「兵庫県ヘリテージマネージャー」が調査をした、県内の近代化遺産の約1,800件が記載されている。そして、兵庫県内の近代化遺産約1,800件のうち、特に重要な物件が127件（注目すべき物件が320件、その他が1,415件）となっている⁽¹¹⁾。

3. おわりに

(1) 観光資源としての近代化遺産

文化庁が行っている「平成24年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」では、「我が国の「たから」である地域の多様で豊かな文化遺産を活用し、伝統行事・伝統芸能の公開や後継者養成、重要文化財建造物等の公開活用や史跡等の復元・公開など、地域の特色ある総合的な取組を支援し、文化振興とともに観光振興・地域経済の活性化を推進すること」が目的とされている⁽¹²⁾。そして、補助対象事業において、①地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業、②ミュージアム活性化支援事業、③重要文化財建造物等公開活用事業、④史跡等及び埋蔵文化財公開事業、が明記されており、そのうち近代化遺産については、③が該当している。

③の重要文化財建造物等公開活用事業では、「重要文化財建造物、登録有形文化財建造物又は重要伝統的建造物群保存地区の公開活用のための保存活用計画の策定、設備等整備」が目指されており、特に

近代化遺産の保護においては、公開・活用がキーワードになっているといえる。

(2) 意識すべき近代化遺産

街を歩くと、何か現代のものとは違う雰囲気のある風景に出会うことがある。それをあとで調べると近代化遺産であったりする。その遺産は、意識しないと破壊・消失されることが多い。だからこそ、近代化遺産を意識して保護・保全することが必要である。

【参考文献】

- (1)兵庫県教育委員会事務局文化財室編『兵庫県の近代化遺産』
p.1, 2006年3月
- (2)文化庁「近代化遺産(建造物等)総合調査費国庫補助要項」,
1990年6月
- (3)文化庁ホームページ
<http://www.bunka.go.jp/Bunkazai/koukai/index.html>
- (4)文化庁ホームページ
<http://www.bunka.go.jp/1hogo/main.asp%7B0fl=show&id=1000000129&clc=1000000033&cmc=1000000097&cli=100000104&cmi=1000000118%7B9.html>
- (5)文化庁「文化遺産オンライン」ホームページ
<http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/191913>
- (6)兵庫県教育委員会事務局文化財室編『兵庫県の近代化遺産』
p.139~140, 2006年3月
- (7)兵庫県教育委員会事務局文化財室編『兵庫県の近代化遺産』
p.74, 2006年3月
- (8)朝来市ホームページ
<http://www.city.asago.hyogo.jp/0000000388.html>
- (9)ひょうご heritage 機構ホームページ
<http://hyogoheritage.org/aboutmh/>
- (10)兵庫県教育委員会文化財課ホームページ
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~shabun-bo/gyouseisituhp/top/130312heritage.pdf>
- (11)兵庫県教育委員会事務局文化財室編『兵庫県の近代化遺産』
序, 2006年3月
- (12)文化庁ホームページ
http://www.bunka.go.jp/bunkazai/kanko_kasseika/index.html